

# 瀬戸内地域における包括的海洋ごみ対策

2020年12月25日



# プロジェクト背景

---

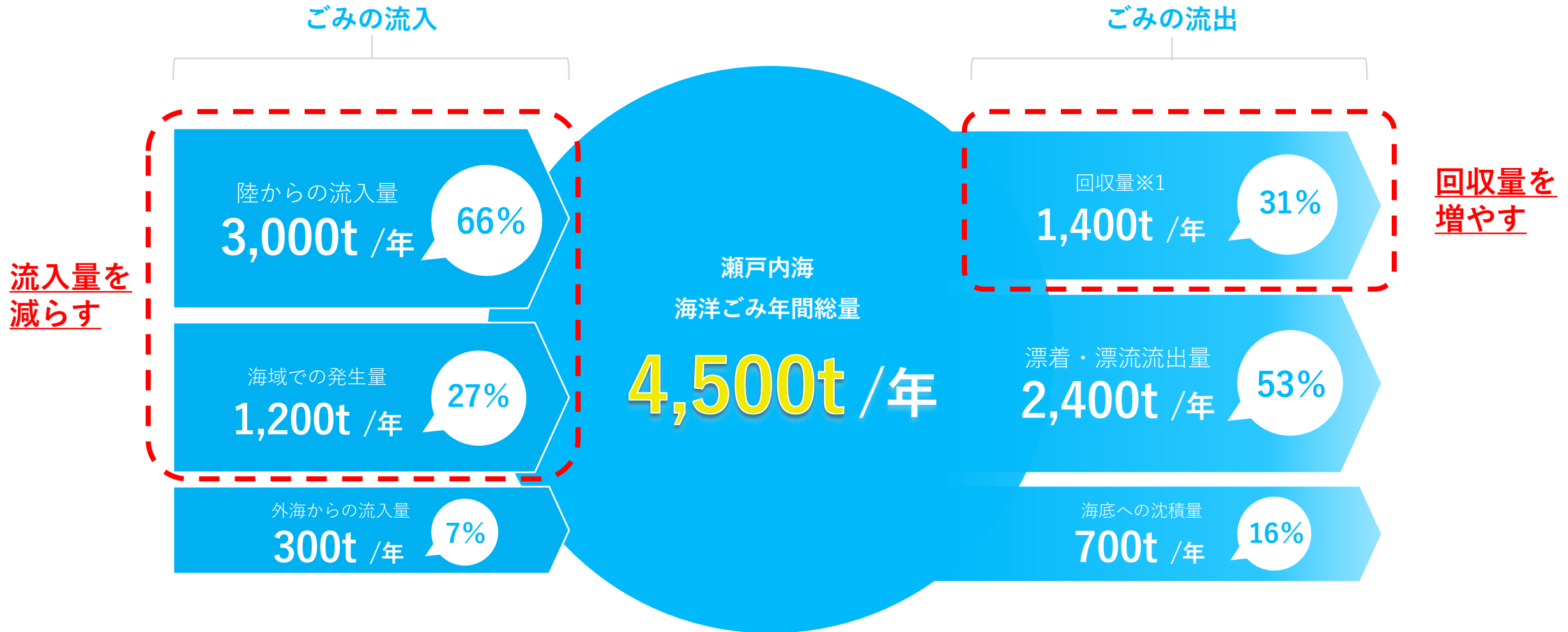




2020年3月～11月、瀬戸内4県内河川流域で予備調査

# 瀬戸内の海洋ごみ

## ■瀬戸内海における海洋ごみ収支



※1海面（海底含む）700t/年 [海面清掃船（国）200t/年・海面清掃船（港湾管理者）400t/年・漁協（海底含む）100t/年]  
海岸700t/年 [漁協 200t/年・500t/年]

出典：藤枝ほか(2010)、環境省調査(2007)

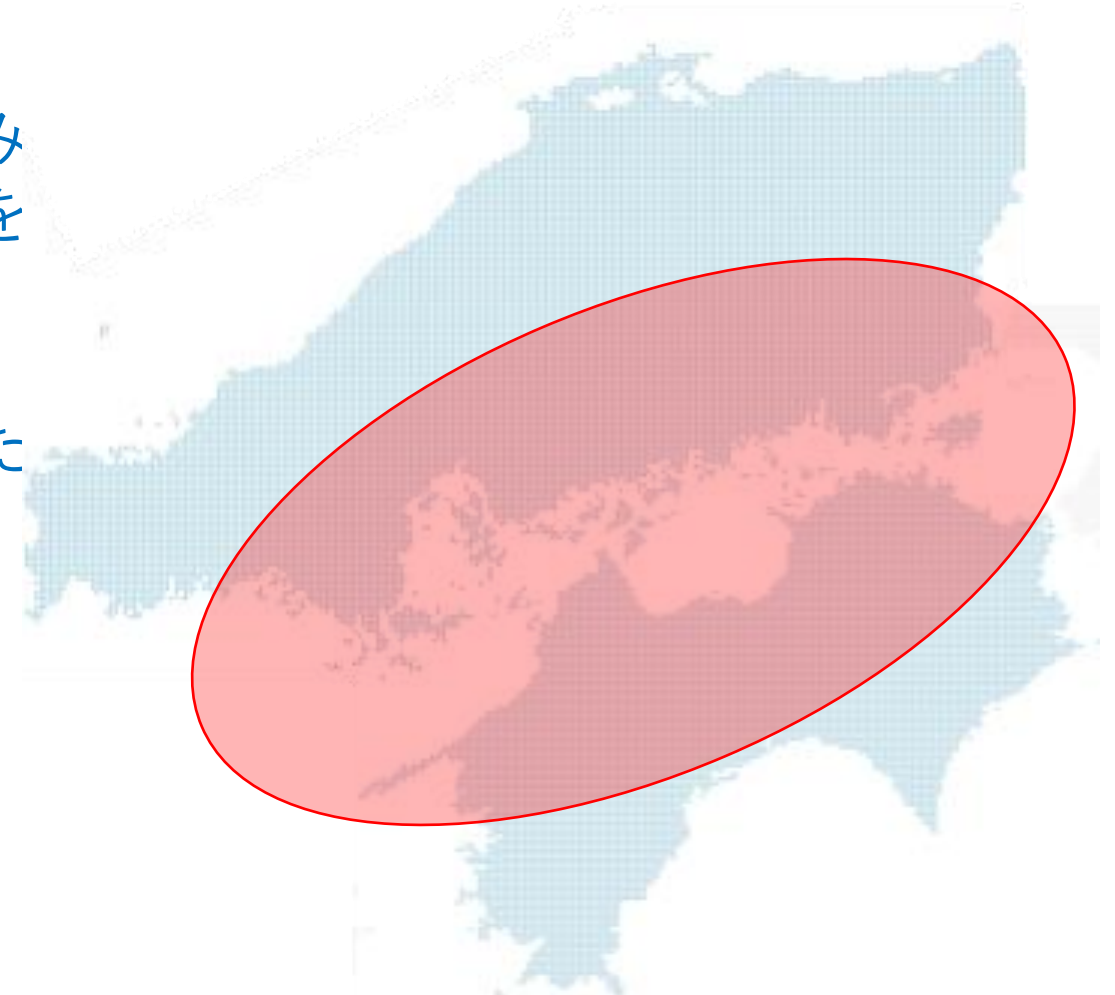
# 瀬戸内の海洋ごみの課題

---

- ✓ 年々、海洋ごみは増加傾向
- ✓ 海に流れ出たごみの多くは県や市町村を越えて移動するため、誰が、どのように回収するのか役割分担が曖昧
- ✓ 各地域で海洋ごみ削減の取り組みは行われているが、地域・個々人の取り組みに終始
- ✓ 自治体・企業・研究者など、分野を横断した広域の取り組みが不足

# なぜ瀬戸内なのか

- ✓ 閉鎖性海域のため、外海からの海洋ごみの流入が少なく、各対策に応じた成果を可視化しやすい。
- ✓ 瀬戸内海のごみは自分たちが流出させたごみが大半のため、当事者意識を伴う対策が取りやすい
- ✓ フィールドとして、山・街・川・海と海底まで網羅している



**海洋ごみ対策のモデルとして最適な地域**

SDGsなどで、海の環境問題に対する社会的関心も高まっている。  
4県とも瀬戸内海をキレイにしたいという思いは同じ。

流出・漂着・堆積する瀬戸内の海洋ごみ問題は、  
発生抑制・回収・処理について、  
県や市町村を跨いだ円滑な対策が不可欠。

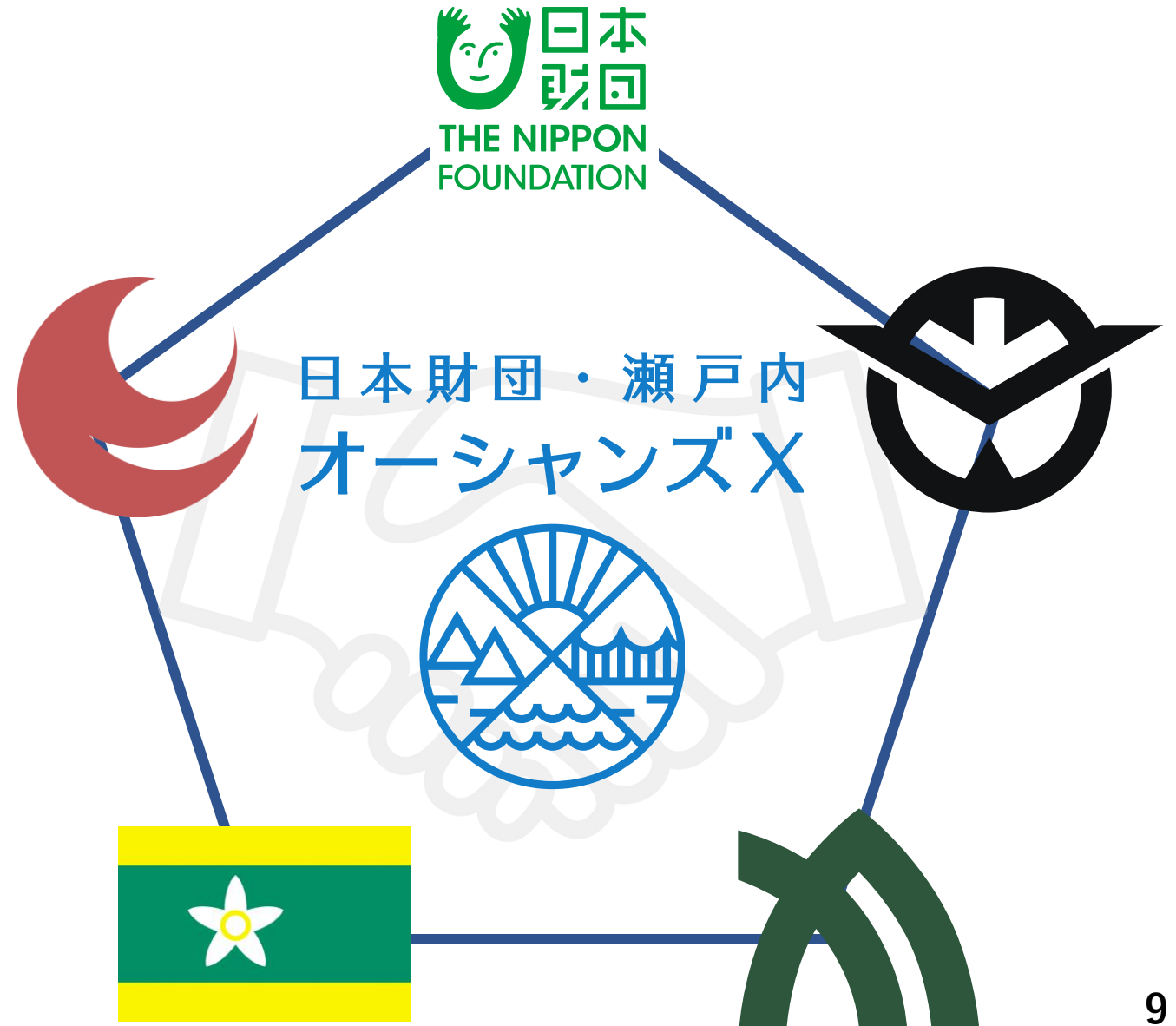


## 瀬戸内 オーシャンズ X

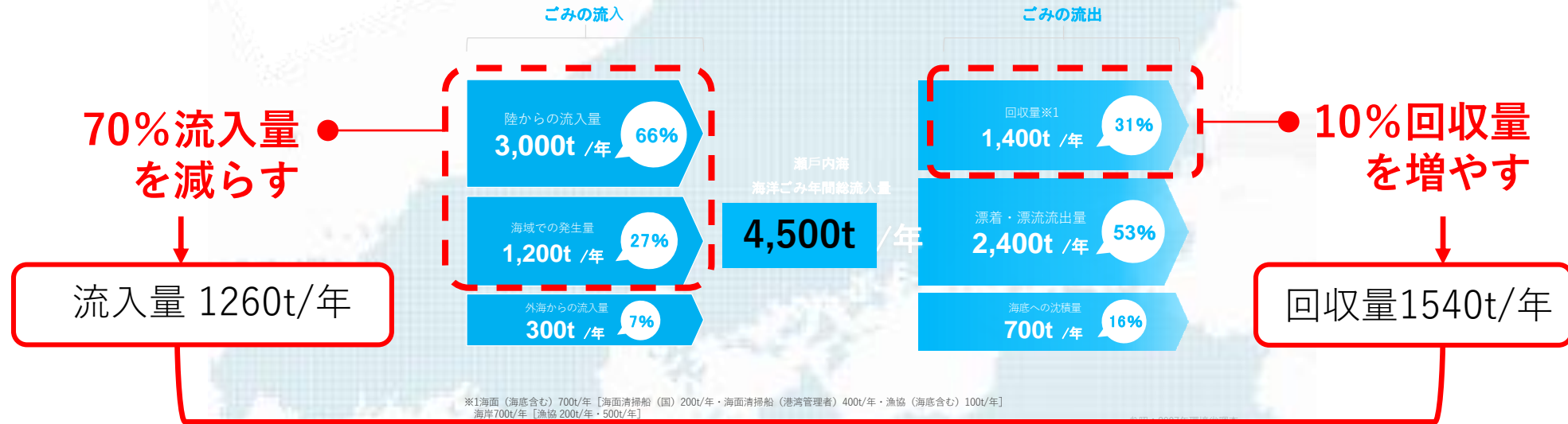
閉鎖性海域である瀬戸内の沿岸4県を4つの端部を持つ「X」になぞらえ、Oceans Xのアルファベット「O」と「X」を図案化したフレームに、瀬戸内の「穏やかな気候」「海」「島」「橋」をイメージした構成



4県と日本財団が連携し、  
海洋ごみ対策をスムーズ  
に展開するため、  
4県横断の組織を結成して  
“海ごみゼロ”を目指していく



## 限りなく“海ごみゼロ”を目指していく



## ごみの流入量 70%減、回収量 10%以上増の達成を目指す

山から海底にまで広がる流域と  
閉鎖性海域を捉えた海ごみゼロ対策となり、  
循環型社会を見据えた“瀬戸内モデル”として世界に拡げていく。



瀬戸内  
オーシャンズX

# 実施内容

---



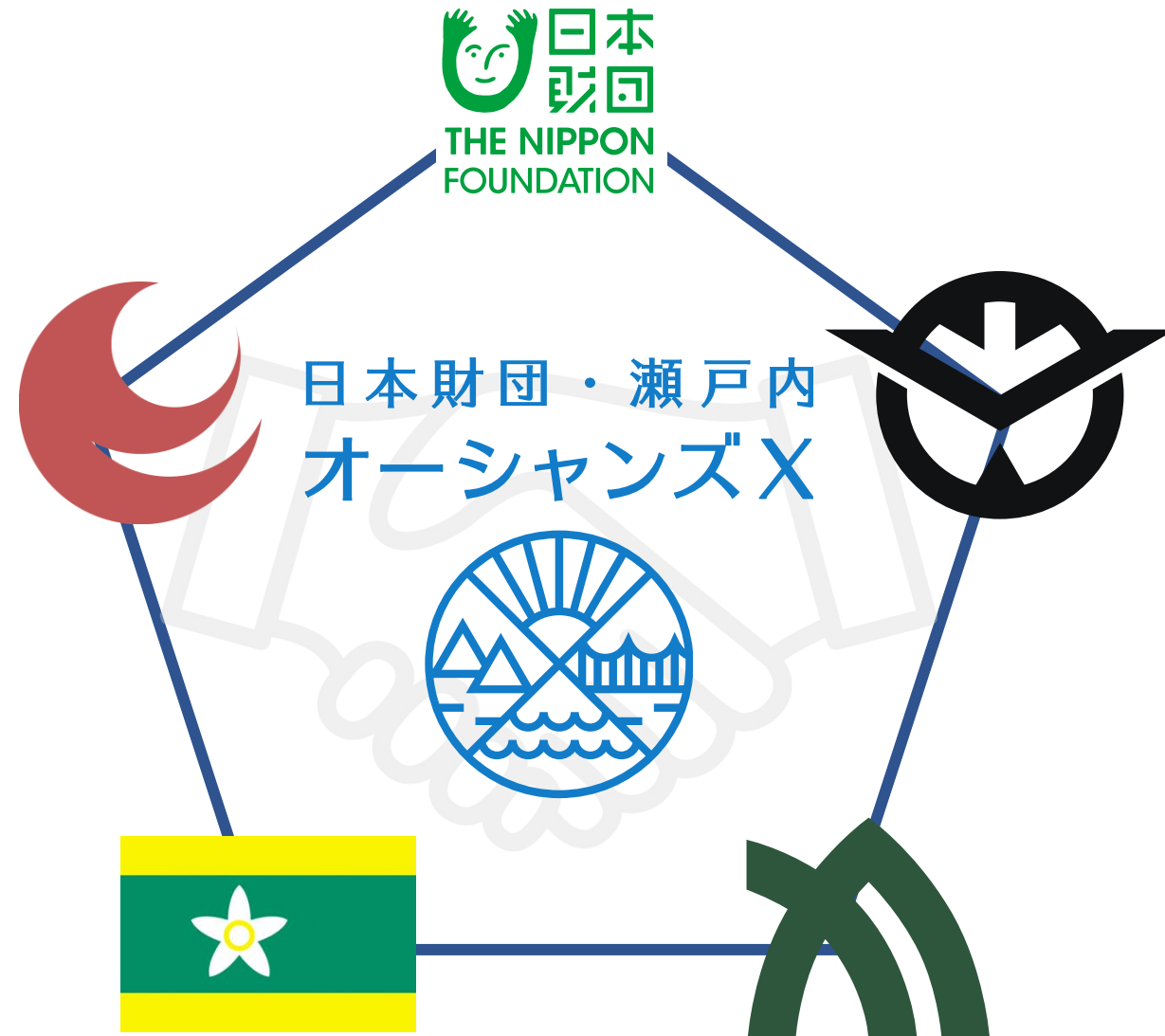
## 瀬戸内4県と日本財団による 共同事業4つの柱

01 調査研究

02 企業・地域連携

03 啓発・教育・行動

04 政策形成





01

調査研究

# 全方位から海洋ごみの徹底的な見える化

シミュレーション結果

2012 02/22 05:00

particle number: 98.559 % of 21588



発生源を捉えた対策、地域における効果的な対策を明らかにする調査を実施。

## 陸

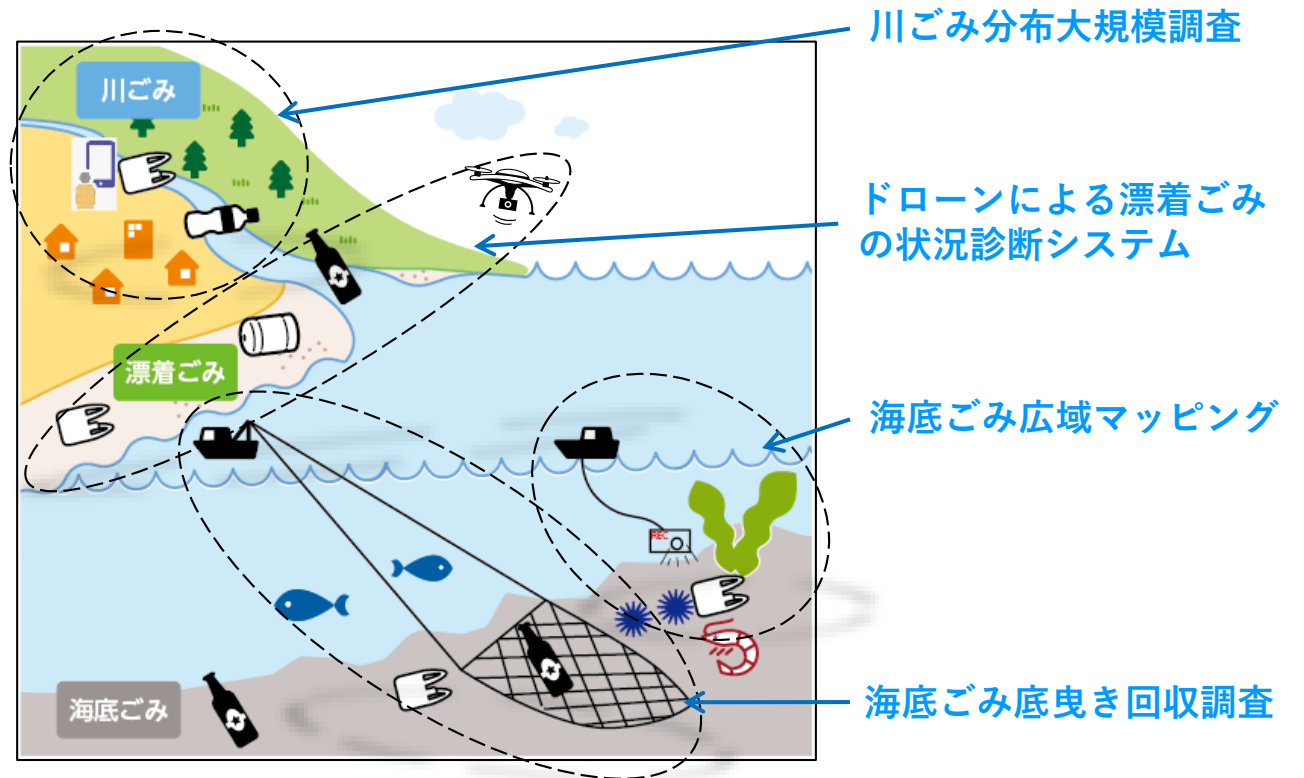
陸域から河川への廃棄物流出  
メカニズム、発生源調査

## 海

漂流ごみ数値シミュレーション  
海底ごみ回収・観測

## 空

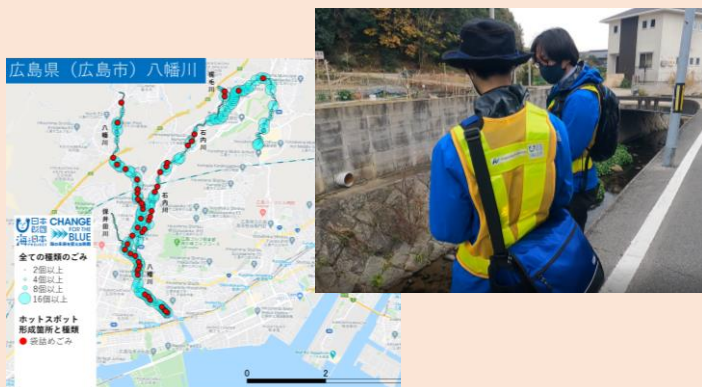
漂着ごみ状況  
診断システム構築



データに基づく対策を立案し、展開できる体制を整えるため、  
必要な調査を実施する。今後実施内容を評価する上での基礎データにもなる

## 陸

陸域から河川への廃棄物流出  
メカニズム、発生源調査

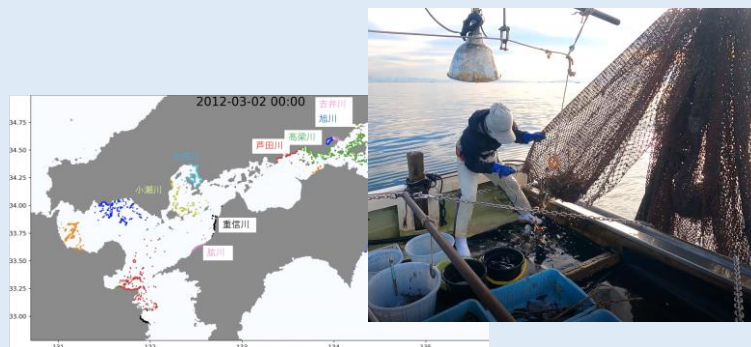


4県300河川・1000 km  
(調査規模：人口カバー率60%)  
2020年12月～2021年4月

ごみのホットスポット、  
ポイ捨て・漏洩が起こる  
原因を特定

## 海

漂流ゴミ数値シミュレーション  
底引き網海底ゴミ回収調査  
海底ゴミ観測



スパコン、水中ドローンなど  
先進技術を活用。漁業関係者らと連携  
2020年12月～2021年12月

瀬戸内海におけるごみの分布  
MAPを作成。海底ゴミ回収  
活動の実施評価にも活用

## 空

漂着ゴミ状況診断システム構築



PROJECT  
IKKAKU

\* プロジェクト・イッカクの一環で実施

ドローン・人工衛星  
ベンチャー技術の活用  
2020年12月～

人が立ち入れないエリアも  
含め、スピーディかつ低コ  
ストで海岸漂着状況を把握



02

企業・地域連携

# 瀬戸内モデルの循環型社会を構築





1

4 県における企業の海洋ごみ対策の実態把握

2

瀬戸内プラスチックバリューチェーンモデル構築

3

海洋ごみ対策企業・団体支援プロジェクト



1

### 4 県における企業の海洋ごみ対策の実態把握

瀬戸内の企業の業態・商品・サービス・技術・特徴・関心領域など、様々な企業データ詳細を把握。それに基づき、どのような組み合わせや連携ができるのかを検討していく。来年度から実施し、4県+αを調査



2022年初頭に調査結果公表

2

## 瀬戸内プラスチックバリューチェーンモデル構築



海洋ごみ対策を目的に、複数の企業が連携して商品開発・共同研究・社会実験等を推進するためのプラットフォームとして、ALLIANCE FOR THE BLUEを2020年7月設立

サーキュラーエコノミーの実現を目指し、メーカーや小売等バリューチェーンを構成する一連の企業と連携して製品・販売手法を開発中。



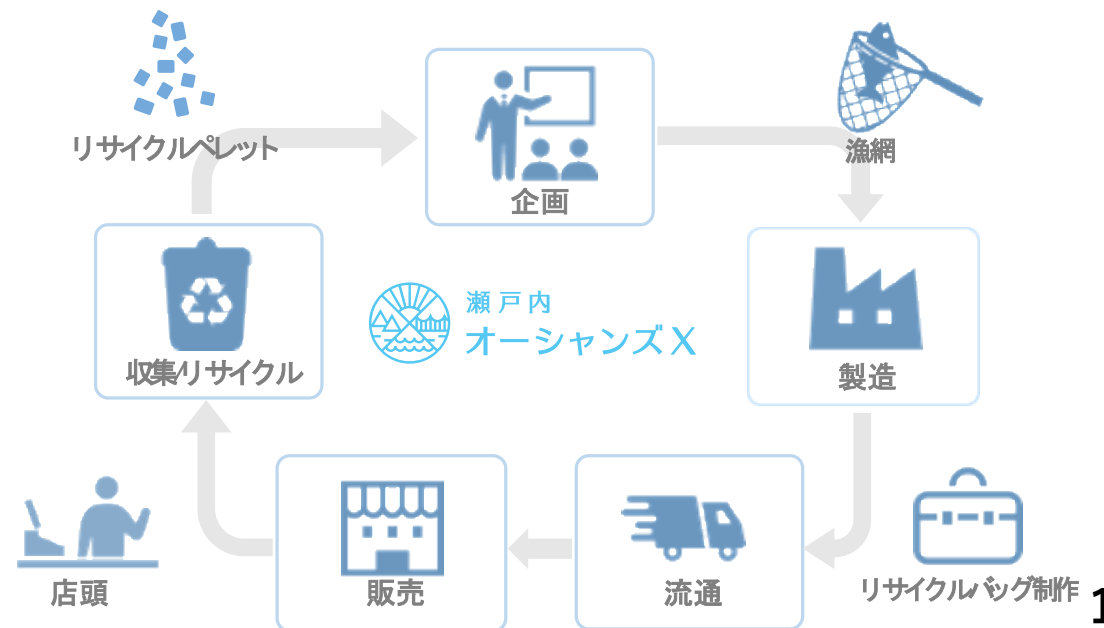
・加盟企業：三菱ケミカル、大日本印刷、コクヨ、menu、セブン&アイホールディングス、リファインバースなど約20社

瀬戸内における

- 企業間、企業と地域のハブ機能の形成
- 海洋ごみを削減するサプライチェーン構築
- 地域住民の行動変容を促す仕組みづくり

の構築を目指す

連携



# 瀬戸内ブルーサーキュラー アライアンス

コンセプト：海への想いを共有する4県と日本財団による、先進的かつ本質的な課題解決基盤の構築



日本財団、(株)セブン・イレブン・ジャパンが自治体と連携し、関東・沖縄で構築してきたモデルを瀬戸内でも展開。店舗を通じて地域住民の行動変容を促進していく。

## PET回収機の効果

キャップ・ラベルを分別して投入するとポイント(インセンティブ)が付く

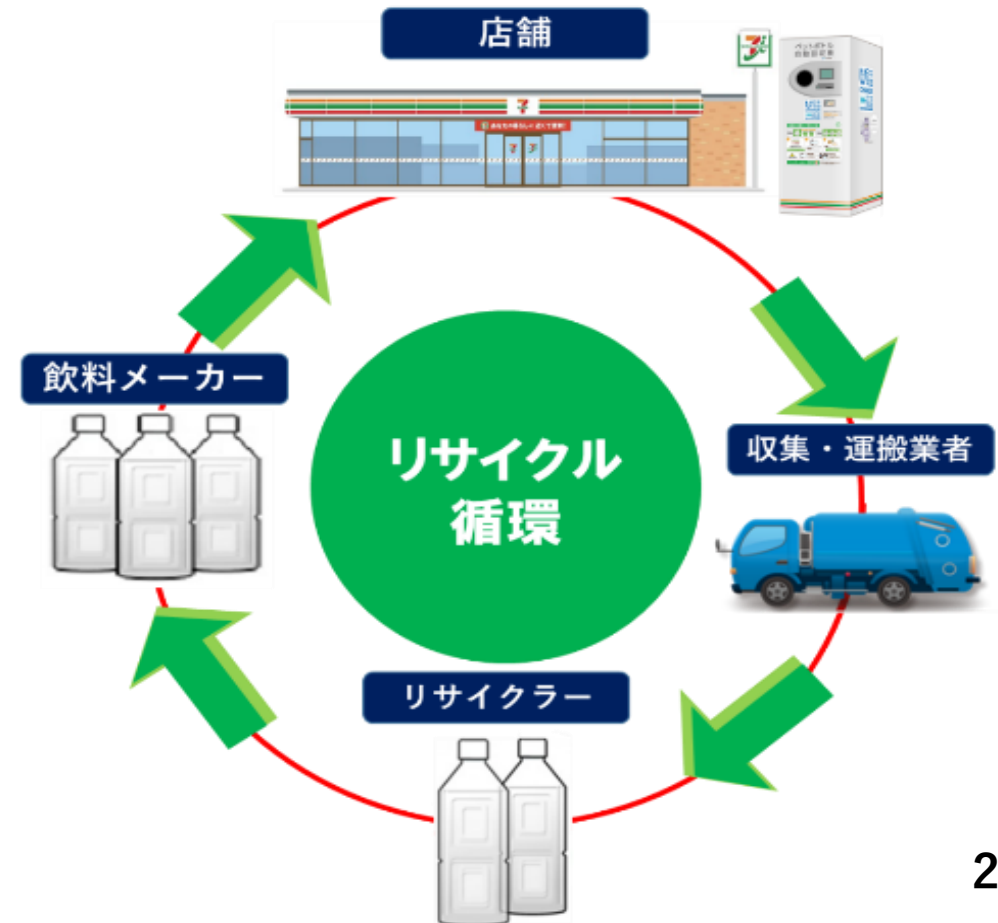


ポイ捨て・漏洩を減らし、陸(街)から海に流出するペットボトルを減らす

不純物が混じっていない高純度のペットボトルが回収できる



”Bottle to Bottle“の材料リサイクルを促進。プラスチック資源を循環させる。

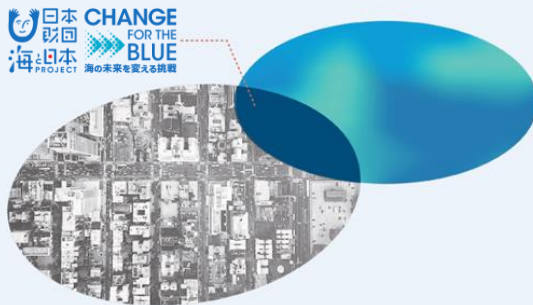


3

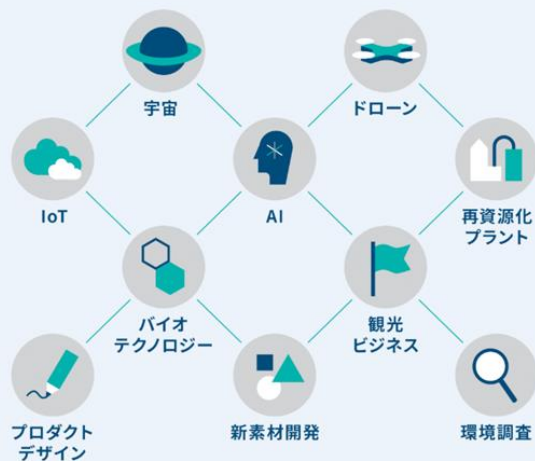
## 海洋ごみ対策企業・団体支援プロジェクト

海洋ごみ問題を解決するため、技術やシステムに裏付けられた新しいアイデアや構想を形にして社会に変革を起こす企業・団体を支援

海ごみの削減と持続可能な「ビジネスシステム」の実装を目指す



さまざまな分野の専門家たちと共創的に取り組む



瀬戸内  
オーシャンズX

「これ以上、海にごみを出さない」社会システムをつくるため  
超異分野×海洋環境×企業・団体(瀬戸内限定)を公募

解決したい課題、技術やシステムをもとに構想

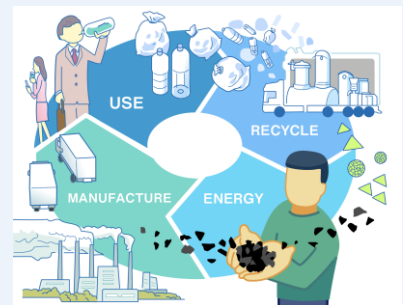
固定期間を設けず通年で支援窓口開放

瀬戸内3~5社事業支援決定

1社、1社に担当コミュニケーター

事業を経年的に共に活動していく

技術やサービスを社会に実装





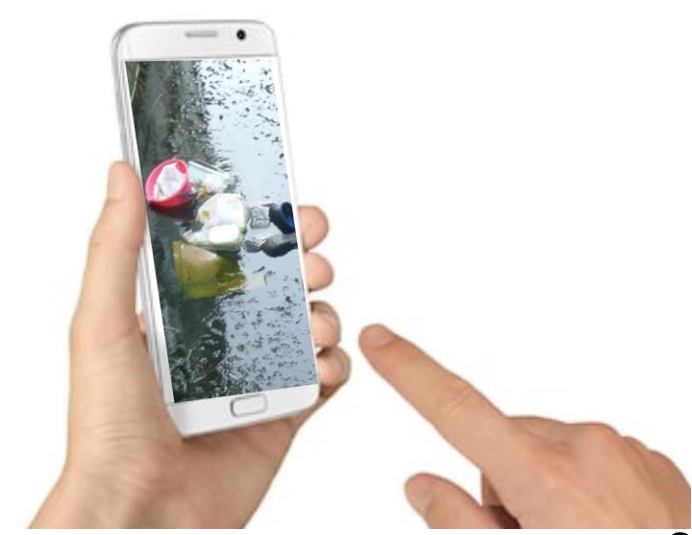
03

啓発・教育・行動

啓発・教育など様々なアクションでマインドチェンジ



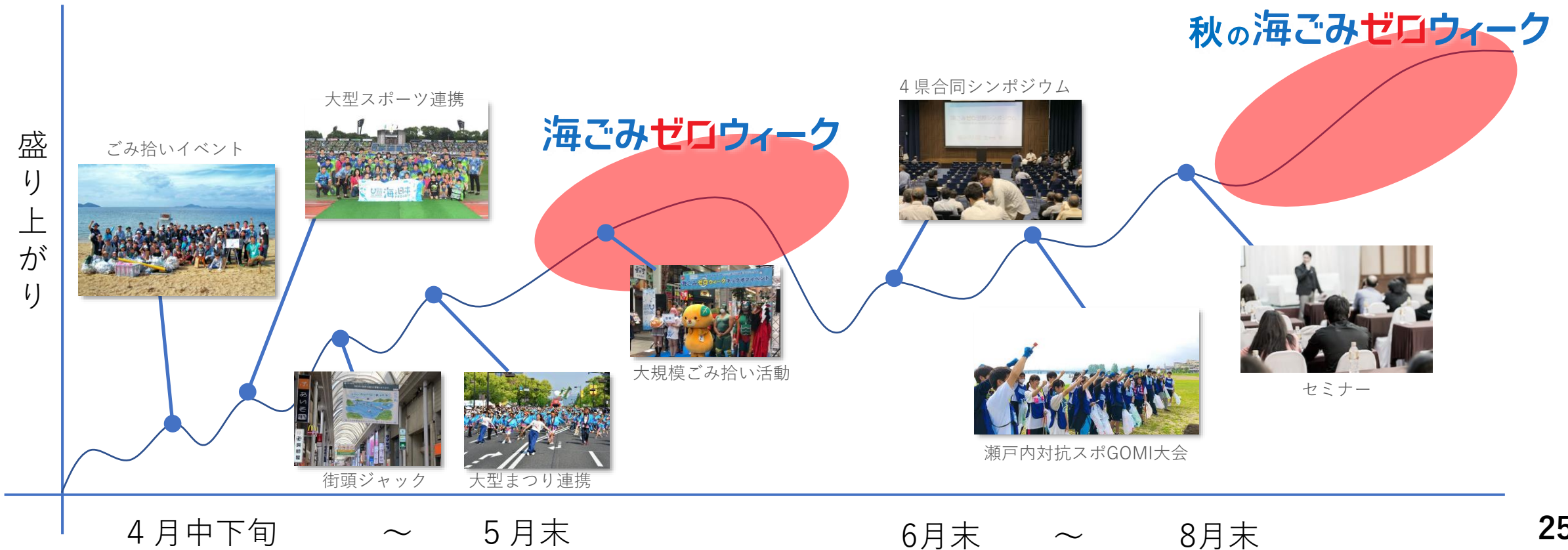
- 1 4県連動海ごみゼロアクション
- 2 海洋環境デザイン教育プロジェクト
- 3 シチズンサイエンス





## 1 4 県連動海ごみゼロアクション

特定の期間で4県連動で活動し、ごみ拾いイベントやシンポジウムなど啓発活動を多発的に実施していく。合わせて、各地域で大型イベントやCMや新聞・街頭など様々な箇所で露出させて接触回数を増やすことで、機運を高めていく。



## 2 海洋環境デザイン教育プロジェクト

子供たちと一緒に、海洋環境の課題解決のためのデザインと、海洋環境と自分たちの望ましい関わり方をデザイン、海との新たな関係を作り出す（デザインする）プロジェクト

### 海洋環境の課題解決のためのデザイン

海洋環境と自分たちの関わり方を変えていくため、生活の仕方や道具の使い方、ものごとの仕組みなど、当たり前と捉えている認識を変容し、よりよい将来を創造するデザインのアプローチを取り入れた教育プロジェクト。  
海洋環境の課題解決のためのデザインとともに、海洋環境と自分たちの望ましい関わり方をデザインしていく。



海洋環境問題の解決に挑む子供たち      解決が望まれる海洋環境の課題



各ジャンルのプロフェッショナル



● アウトプット(例)

行動変容ピクトグラム

新プロダクト

新スポーツ

書籍



海洋教育センター  
CENTER FOR OCEAN LITERACY AND EDUCATION





04

政策形成

制度運用の工夫、ガイドライン作成

01

調査研究

02

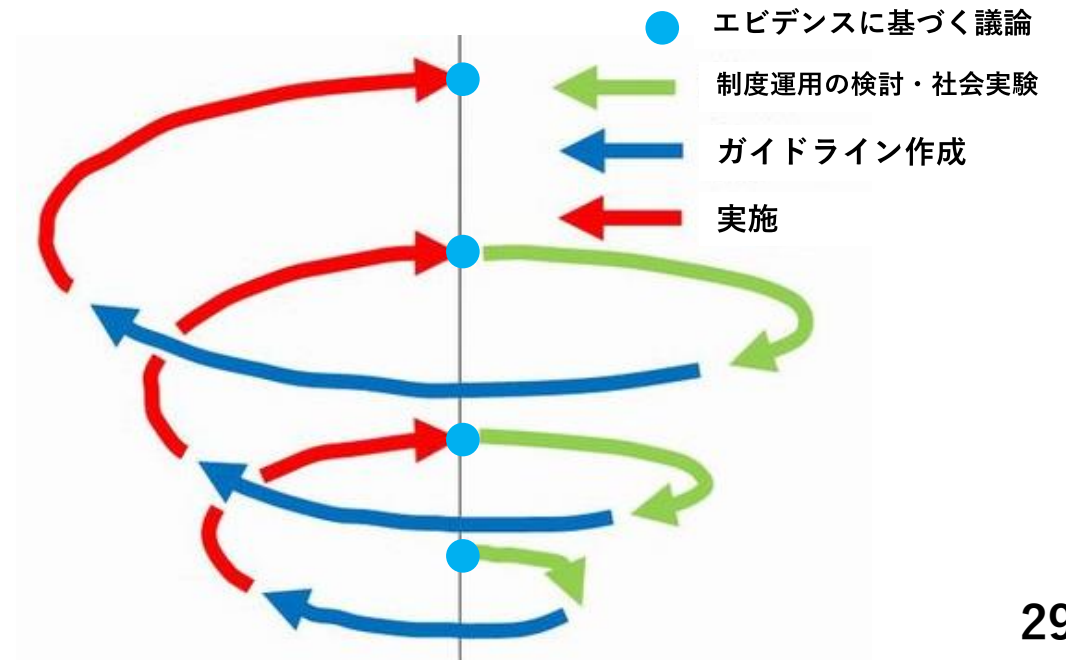
企業・地域連携

03

啓発・教育・行動

これらから見えてきた事柄を集約して検討を加え、これを知見として取りまとめる。

エビデンスに基づき、地域の実情に合わせて制度運用の進化を図り、  
実践ガイドラインを作成するなど、対策を継続的に実施できる仕組みを整えていく。



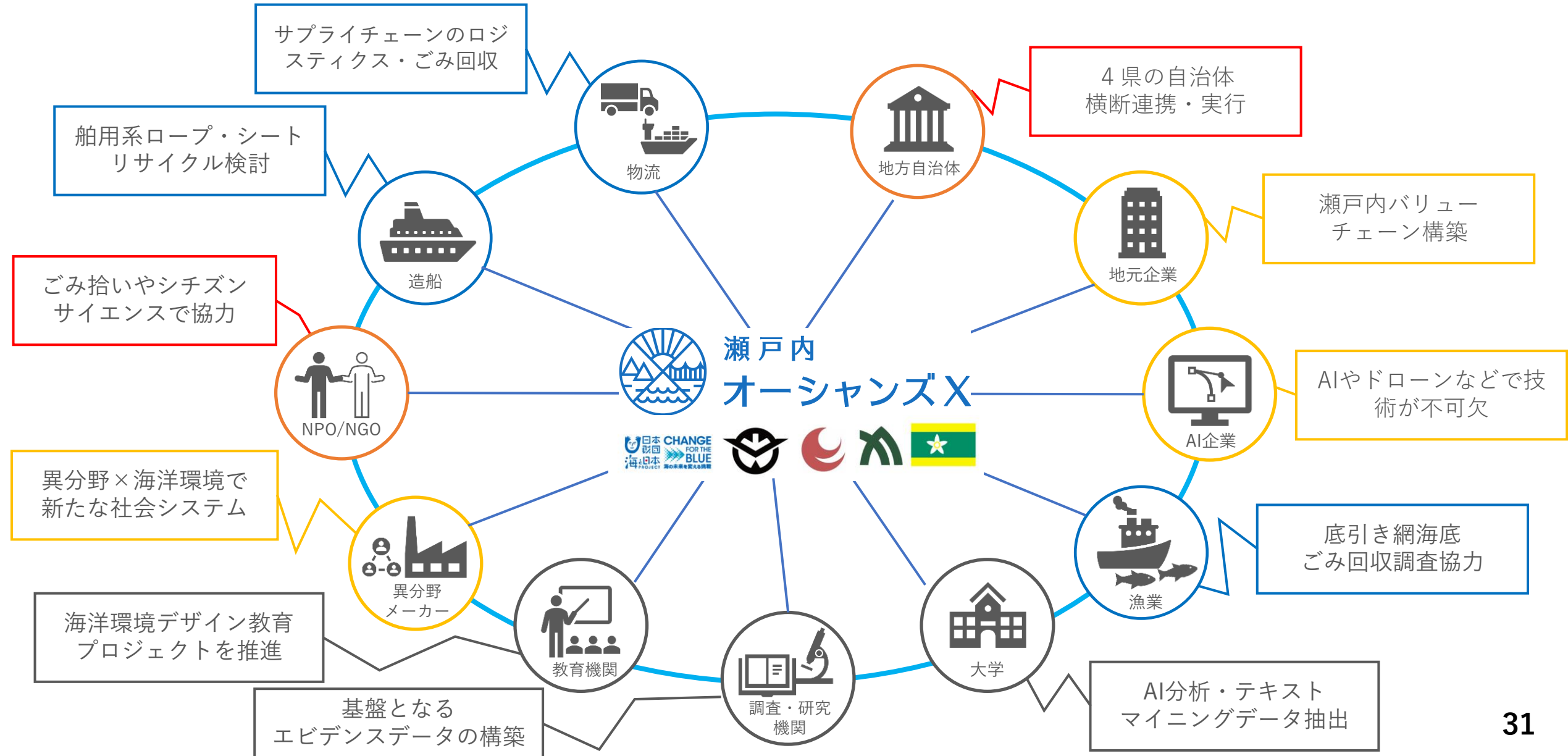


瀬戸内  
オーシャンズX

# 体制

---







## 瀬戸内オーシャンズX推進協議会

会長：4県から互選

会員：各県の環境担当部局長

\* 日本財団はオブザーバーとして参加

役割：広域連携する事業の「方針」、「企画」の決定と、「全体の実施管理」



岡山県



広島県



香川県



愛媛県

推進協議会が担う「全体の実施管理」を各県がフォロー



香川県庁内に事務局設置



年数回の幹事会（コア会議）を設定  
（進捗管理・ビジョン会合）





瀬戸内  
オーシャンズX

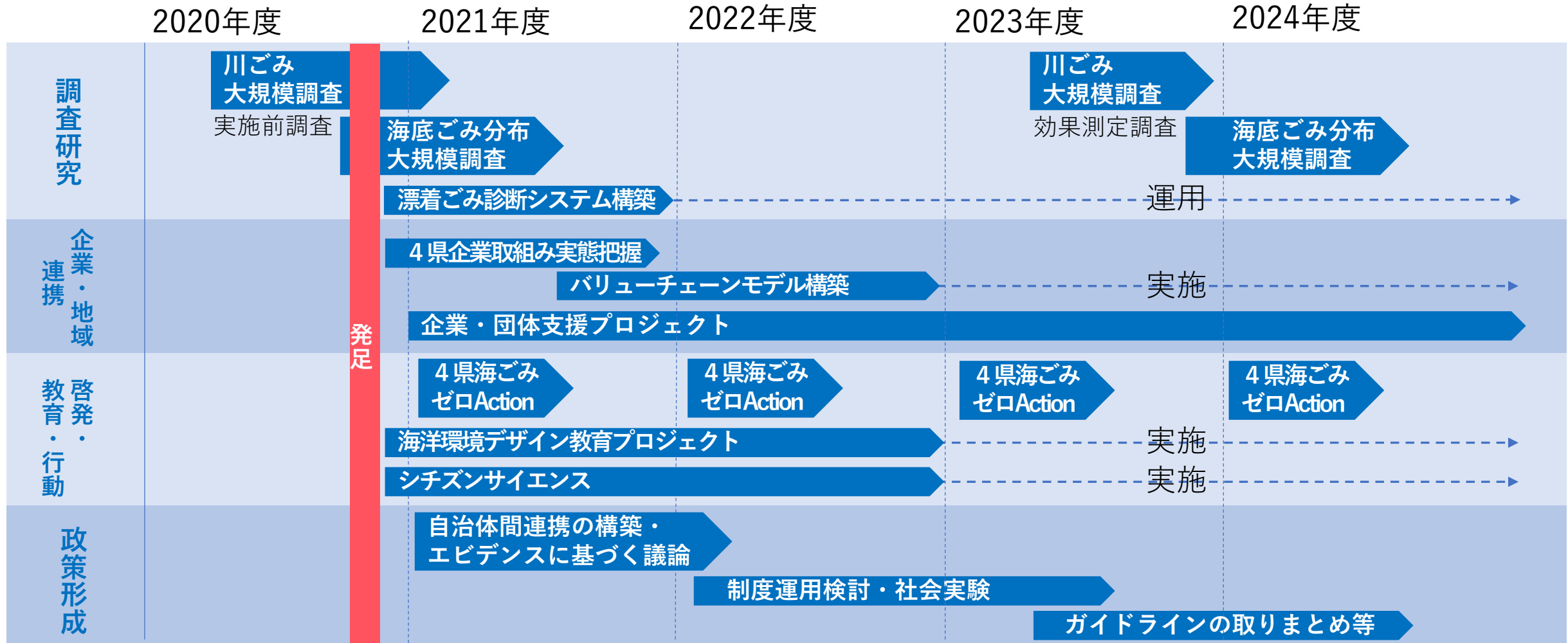
# 規模・スケジュール

---



- ◆ **実施期間（予定）：5 年**
- ◆ **事業開始：2020年12月25日**
- ◆ **予算規模：約 1 5 億円**
- ◆ **今後展開：瀬戸内 4 県 +  $\alpha$**

# スケジュール



発足

参考) SDGs14.1(ごみ): 2025年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。



瀬戸内  
オーシャンズX

